

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
 TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL: <http://www.sairingi.com/>
 携帯URL: <http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter: @sairingi

第64回埼玉県公衆衛生大会 開催される 当会推薦6名、公衆衛生事業功労者として埼玉県知事表彰を受賞

令和2年11月9日(月)に埼玉会館小ホールにて開催された第64回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県知事表彰の授賞式が執り行われ、当会から、穴原賢治氏、阿部健一郎氏、網野育雄氏、荻野毅史氏、小関紀之氏、濱田昇一氏の6名が公衆衛生事業功労者として表彰されました。

授賞式は大野元裕知事の挨拶の後に執り行われ、その後、来賓を代表して埼玉県議会の田村琢実議長、埼玉県医師の金井忠男会長より祝辞が述べられ受賞者代表の謝辞の後、閉会となりました。

今回も多くの方が知事表彰を受賞できたことは、会として誇らしいことであり、会員の地道な努力・活動が認められたことは、会長としても大変嬉しいことです。

受賞者の皆様、このたびは誠にありがとうございました！

(神山清志)



(後列左から) 荻野毅史氏、濱田昇一氏、神山会長、阿部健一郎氏
 (前列左から) 穴原賢治氏、小関紀之氏、網野育雄氏

受賞者 喜びの一言

彩の国東大宮メディカルセンター 穴原 賢治

この度、第64回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきましたことを大変光栄に思うとともに、深く感謝しております。

埼玉県の技師会活動としましては、埼玉県医学検査学会の実務委員、研究班運営委員を経験させていただきました。中でも研究班活動では細胞検査研究班で約5年、公衆衛生検査研究班で約9年在籍し、それぞれの研究班班員の方々、諸先輩の方々にはとても親切に多くのことを教えていただきました。また活動時には色々と各方面の皆様にもご協力賜り有難うございました。今回、ご推薦くださいました埼玉県臨床検査技師会 神山清志会長をはじめ多くの皆様にお礼申し上げます。

今後も微力ながら埼玉県臨床検査技師会の一員として尽力して参りますので、何卒よろしくお願いたします。



深谷赤十字病院 阿部 健一郎

この度、第64回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきました。この榮譽ある賞にご推薦・ご尽力いただきました埼玉県臨床検査技師会 神山清志会長をはじめ関係する皆様に厚く感謝申し上げます。

今回の受賞は、埼臨技理事等の活動を評価していただいたものと考えておりますが、未熟な私を受賞することが出来たのも、会務を遂行するにあたりご指導いただいた諸先輩方及び先輩理事の方々と研究班員皆様のご協力や、快く技師会活動に送り出していただいた職場皆様ご理解があつてのことでありこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

この賞を励みに、これからも会員や県民の皆様方のため技師会活動に微力ながら貢献していきたいと考えております。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。この度は誠にありがとうございました。



埼玉医大国際医療センター 網野 育雄

この度、第64回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきました。この名誉ある表彰を受賞するにあたり、埼玉臨床検査技師会 神山清志会長をはじめ役員の皆様、会員の皆様、そして技師会活動に理解をいただきご協力いただいた先輩をはじめ職場のスタッフの皆様には深く感謝申し上げます。

臨床検査技師となつてあつという間に27年が過ぎました。技師会に入会し、諸先輩方より指導伝達を受け気がついてみれば27年が過ぎていました。技師会活動を通じて千葉県、茨城県、神奈川県、東京都、栃木県、山梨県と知り合いが増え、さまざまな交流が生まれました。今年は、新型コロナウイルスの影響でさまざまな催し物が中止になるなか、公衆衛生大会が行われ、県知事より言葉を賜り表彰されることの意味を重く受け止めさせていただきました。

埼玉県には、臨床検査技師を育てる大学、専門学校がたくさんあります。しかし、技師会活動では、実習ができる施設が少なく会場を探すのにも困難が生じていました。今回、卒後教育の一環および今後の技師会活動と教育施設との連携において理解していただき、新型コロナウイルスの影響があるにもかかわらず、御協力をいただいた女子栄養大学の井越先生にも深く感謝申し上げます。



今後は、さらに各教育施設と連携を取り卒後教育ならびに技師会活動での協力が得られるように魅力のあるプランを提示し、各教育施設に声をかけて勉強していきたいと思っています。

埼玉県済生会川口総合病院
荻野 毅史

この度、埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただき、誠にありがとうございました。ご推薦いただきました埼玉県臨床検査技師会 神山清志会長をはじめ、理事の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。また、今回の受賞にあたり今までご指導いただきました微生物検査研究班、研究班を通じて知り合いました皆様、職場で応援してくれた皆様には、この場を借りて御礼申し上げます。



臨床検査技師となってから今まで、柱として活躍する先輩検査技師を目標に全集中頑張ってきました。そして、2011年の東日本大震災に続く今回の新型コロナウイルスの感染拡大は、新たな日常生活への転換点でもあると考えられます。臨床検査の力では何ができるのか。地域との連携が必要になる中で検査技師会の活動が益々求められるものと考えています。皆で力を合わせてこの困難を乗り越えていきましょう。

今後は若い検査技師が良い経験が出来るように恩返ししていきたいと考えています。そしてこの受賞を励みに、より良い臨床検査のために尽くしていきます。この度は誠にありがとうございました。

獨協医科大学埼玉医療センター
小関 紀之

この度、第64回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきました。ご推薦いただきました埼玉県臨床検査技師会 神山清志会長をはじめとする理事の皆様、会員の皆様、賛助会員の皆様に厚く御礼申し上げます。私なりではありますが、一生懸命に取り組んでまいりました一般検査研究班活動と理事会活動を評価いただいたものと思ひ、大変うれしく思っております。また、職場の理解と協力、家族の支えにも感謝しております。



今後も臨床検査技師会の一員として「全集中」にて精進してまいります。引き続きご指導を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社 アムル 上尾中央臨床検査研究所
濱田 昇一

この度、第64回埼玉県公衆衛生大会において埼玉県公衆衛生事業功労者賞を受賞させていただきました。この栄えある賞の候補としてご推挙いただきました埼玉県臨床検査技師会 神山清志会長をはじめ理事の皆様及び諸先輩方に深く感謝申し上げます。



今回の受賞は、検査室管理運営委員会及び埼臨技理事等の活動をご評価いただいたものと思ひますが、この様な活動を継続し実施できたのもひとえに、さまざまな技師会行事にご参加いただきました会員の皆様、理事の皆様そして、何よりも快く技師会活動に送り出してくださいました職場の皆様のお陰で受賞できたものと考えております。この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。今後も、微力ですが埼玉県臨床検査技師会の発展のため寄与させていただければと思ひます。この度は、誠にありがとうございました。

❁❁❁❁ 福見秀雄賞を受賞して ❁❁❁❁

株式会社 ビー・エム・エル総合研究所
坂場 幸治

黒住医学研究振興財団より福見秀雄賞という大変栄誉ある賞をいただき、大きな驚きとともに身に余る光栄と思っています。本受賞にご推薦をいただきました埼臨技神山会長、埼臨技理事の方々に大変感謝申し上げます。本賞は血液形態検査の標準化およびそれらの普及活動、また、血液検査に関わる後進の育成であり、坂場一人というよりも、埼玉県臨床検査技師会、日本臨床衛生検査技師会・日本検査血液学会血球形態標準化ワーキンググループ（WG）、日本検査血液学会標準化委員会などを代表しての賞であると思っています。

血液形態検査は日常診療活動の根幹をなす基本的検査で、その臨床的意義は非常に重要とされています。しかし、現状では個人差さらには施設間差がみられ、この大きな理由の一つとして血液形態検査には国際的な判定基準や共通の基準範囲がほとんど無い

ことがあげられます。

血液形態検査の標準化は1996年日臨技勧告法として医学検査に報告され、その後、日本検査血液学会に引き継がれ2003年以降、好中球・リンパ球系細胞、赤血球形態、骨髓幼若細胞の標準化が行われました。これらの標準化事業は日本医学検査学会、埼玉県医学検査学会、日臨技形態検査部門全国研修会、各支部血液検査研修会、都道府県血液検査研修会において企画・講演を通して、血液形態検査標準化の普及活動を行ってきました。しかし、一部の細胞において標準化は未だに浸透していないことも判明したため、日臨技と検査血液学会は血球形態標準化WGを立ち上げ、好中球桿状核球・分葉核球、骨髓幼若顆粒球・赤芽球の分類基準の改訂を行い、それらの学会発表や論文投稿を行いました。今後は標準化された細胞がより全国的に浸透するよう、日本臨床検査標準化機構（JCCLS）および多くの学会などと協力して長期に亘る啓発活動が重要と考えています。

以上のように血液形態検査における標準化は困難ではありますが、可能なところから前進していきます。いつの日か血液形態検査において全国的な標準化の普及が浸透し、どこの検査室においても同一細胞が同じものとして同定されることを願っております。今回の福見秀雄賞受賞に際し埼臨技神山会長を初めとして関係各位に感謝申し上げますとともに、埼臨技の更なるご発展および臨床検査全ての部門における標準化の実現を祈念致します。

研究班研修会報告

テーマ 初心者のためのスライドセミナー

主催 細胞検査研究班

実施日時：令和2年10月2日 19時00分～21時00分

会場：浦和コミュニティセンター 第15集会室 点数：基礎教科ー20点

講師：船津 靖亮（株式会社 正和ラボラトリー）

猪山 和美（自治医科大学附属さいたま医療センター）

急式 政志（埼玉県立小児医療センター）

司会：加藤 智美（埼玉医科大学国際医療センター 病理診断科）

参加人数：会員55名

出席した研究班班員：加藤 山崎 鶴岡 船津 松内 急式 稲山 野本 猪山

研修内容・感想など

例年恒例となっている、これから細胞検査士を目指す技師および資格を有する若手細胞検査士向けに「初心者のためのスライドセミナー」として開催した。内容は婦人科（12問）・体腔液（4問）・呼吸器（7問）・消化器（7問）・泌尿器（3問）・乳腺&甲状腺（7問）・その他（10問）の計50問をテスト形式にてスライド閲覧後、解答・解説を行った。設問スライドは期間限定でPDFファイルを事前に閲覧、回答可能（参加申し込み者のみメールにて連絡）とした。設問の解答は任意としクエスタントを用いて回収を行い、解答用紙は各自持ち帰りとした。講師の方々には、個々の細胞所見の取り方を始め、良悪性判定や組織型推定のポイント、間違いやすい症例との鑑別を中心に、細胞像を対比させながら詳しく解説が行われた。また up to date な内容や細胞診断へのアプローチなども解説に交え、日常的に頻度の低い希症例の見方や要点なども再確認することができた。試験対策のみならず、初心者や中堅技師など幅広い世代の技師にとっても知識の整理・確認が出来たと思われる。

（文責：猪山和美）

テーマ 輸血の日々の精度管理とカラムを学ぶ

主催 輸血検査研究班

実施日時：令和2年10月16日 19時00分～20時30分

会場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：専門教科ー20点

講演 1：輸血における日々の精度管理（用手法を含めて）

講師：西野 由希子 氏（株式会社 カイノス）

講演 2：カラムの反応結果から考えるCase study

講師：中島 康裕 氏（株式会社 カイノス）

参加人数：会員42名 賛助会員2名

出席した研究班班員：久保居由紀子 小原佑太 宮澤翔子 岸健太

研修内容・感想など

今回の研修会は株式会社カイノスの西野氏と中島氏より講演が行われた。

前半では『輸血の日々の精度管理（用手法を含め）』についての講演であった。改正医療法によって検体検査の精度確保がより一層求められるようになり、輸血検査においてどのような精度保証が必要になるのか示された。輸血検査においても年々自動化が進み、用手法で行なうことが以前より少なくなってきた。特に日当直だけ輸血検査を行う技師は不安を感じながら用手法を行なうことが多いのではないだろうか。その際の検査精度維持のためには検査者の手技・目合わせのための陽性対照・陰性対照の重要性を実感した。

後半の『カラムの反応結果から考えるCase study』はカラム法の原理からお話があり、カイノ

ス社のDG Gelが他のカラム法と比較すると、抗ABや2つの抗D試薬を使用することでABO・Rhそれぞれの亜型をとらえやすくなっていることがわかった。Case studyではルーチン検査で遭遇しやすい症例を中心に『カラム凝集法での結果と問題の考え方・追加試験・輸血への対応』について、一連の流れについてわかりやすく、大変有意義な講演内容であった。

安全な輸血治療を行う上では、迅速かつ正確な輸血検査の手技と判断力等が求められる。日々の検査の精度を維持しつつ、このような研修会を通して検査者間の技術向上に努めていきたいと考える。
(文責：宮澤翔子)

テーマ **尿アルブミンについて学びましょう** **尿アルブミンと糖尿病性腎症**

主催 血清検査研究班

実施日時：令和2年10月21日 19時00分～20時10分

会 場：大宮ソニックシティ 602号室 点数：専門教科－20点

講 師：土井 創（ニッポーボーメディカル株式会社 学術部 東京学術グループ）

参加人数：会員34名

出席した研究班班員：渡辺剛 大坂圭司 岡倉勇太 末次遼太 菅野佳之

研修内容・感想など

今回は糖尿病性腎症の分類に用いられている尿アルブミンを中心に、腎臓の構造と機能、タンパクが尿中に出現するメカニズムについて、また糖尿病に纏わる基礎知識から治療法、腎症から人工透析への導入についてなど、そして腎症を取り巻く環境や埼玉県で取り組まれている糖尿病性腎症重症化予防対策に至るまで幅広い内容で講演が行われた。

糖尿病には神経障害、網膜症、腎症の三大合併症があり、動脈硬化による腎臓の細小血管障害が起因となる糖尿病性腎症は糖尿病発症から約10年で起こるといわれている。糖尿病性腎症は早期発見・早期治療を施せば重症化を防ぎ得るが、顕性腎症期以降に未治療のまま経過してしまうと不可逆性の腎不全期へと進行し、果ては人工透析の導入が必要となってしまう。これは患者のQOLを低下させるだけでなく、待ったなしで我が国の医療費をも逼迫している。早期腎症に対する医療費は比較的少額ですむものの、人工透析が必要となるとその額は10倍に跳ね上がる。そして残念ながら人工透析導入の新規患者数は年々増加の一途をたどっており、その数は30年で約6倍となっている。国民の6人に1人は糖尿病が強く疑われる状態にある我が国において、これは由々しき状態であることは言うまでもない。

そのために埼玉県では平成26年度から糖尿病性腎症重症化予防対策が、わが国でも糖尿病性腎症重症化予防プログラムの改定などが施されている。

糖尿病は種々の大病の基礎疾患として極めて重要である。尿アルブミンは早期腎症期を発見できる唯一のマーカーであり、本研修会を通して尿アルブミン測定が糖尿病性腎症の早期診断に重要であることを認識したとともに我々臨床検査技師は腎症を取り巻く環境を深く理解する必要があることを強く認識することができた。

(文責：菅野佳之)

テーマ **これが私たちの仕事です!!**

～ 病理組織の復習と同一症例から学ぶ各担当の役割・ポイント～

主催 一般検査研究班

実施日時：令和2年10月23日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティセンター 第15集会室 点数：専門教科－20点

講 演 1：病理組織像の基本 ～ 腎臓・膀胱を中心に ～

講 師：岡村 卓哉（獨協医科大学埼玉医療センター 病理診断科）

講 演 2：同一症例から考える① ～ 一般検査担当技師の立場から ～

講 師：藤村 和夫（埼玉県済生会川口総合病院）

講演 3 : 同一症例から考える② ～ 細胞検査士の立場から ～

講師 : 永縄 真央 (埼玉県済生会川口総合病院)

講演 4 : 同一症例から考える③ ～ 病理医の立場から ～

講師 : 山崎 早苗 先生 (埼玉県済生会川口総合病院 病理診断科 主任医長)

参加人数 : 会員70名

出席した研究班班員

一般検査研究班 : 藤村和夫 柿沼智史 佐々木菜緒 渡邊裕樹 中川禎己 小針奈穂美

病理検査研究班 : 岡村卓哉 関口久男 森田繁 小島朋子 萩真里子

細胞検査研究班 : 加藤智美 鶴岡慎悟 船津靖亮 松内萌 野本伊織 稲山拓司 猪山和美
急式政志 山崎泰樹

研修内容・感想など

今回の研修会は細胞検査研究班・病理検査研究班・一般検査研究班の合同開催となった。

講演1では、岡村氏より腎臓・膀胱を中心とした病理組織像の基本について講演が行われた。尿細管上皮は近位・遠位尿細管の鑑別情報として刷子縁の有無、核配列の特徴を観察することが重要とのことだった。また、尿細管上皮に限らず、尿沈渣検査で行われている細胞鑑別と違った鑑別情報を学ぶことができ、組織像をイメージして鏡検にあたることの重要性を再認識した。

講演2では、藤村氏より患者症例を用いて、一般検査担当技師の立場から講演が行われた。尿沈渣検査は正確な付加価値情報を迅速に提供することが重要であり、そのための流れとして、各施設に合った自動分析装置の性能を把握し、その測定結果を、鏡検と合わせて評価することで、鏡検率や業務の効率化、並びに今回の症例のような悪性を疑う細胞の検出に結びつけることができると学んだ。また、自施設の運用見直しを考えさせられる内容であった。

講演3では、永縄氏より同一症例を細胞検査士の立場から講演が行われた。細胞診依頼より結果報告までを細胞判定する「所見・ポイント」を踏まえながら解説があり、とてもわかりやすく、このような他部門の形態所見・ポイントの確認は尿沈渣鏡検で役立つことばかりであった。

講演4では、山崎医師より同一症例を疫学や診断の流れなどを踏まえ、病理医の立場から講演が行われた。症例の解説の中で、疫学や病期診断、検査の流れなど検査技師としてはもちろんのこと、自分が患者様になったような視点からわかりやすく症例や組織分類などを理解することができた。

今回の研修会で改めて、各部門の役割などを理解・共有し合う連携、また一般検査部門では、組織像をしっかりと理解した上で鏡検を行うことの重要性を改めて理解することができた貴重な時間となった。
(文責 : 中川禎己)

テーマ 初心者・初級者血液形態セミナー

～ デジタル機器を用いて血液形態を共有しよう ～

主催 血液検査研究班

実施日時 : 令和2年11月8日 9時30分～16時30分

会場 : 女子栄養大学 坂戸キャンパス 講義室1301教室、実習室 第一実習室

点数 : 専門教科-20点

講師 : 林 文明 (シスメックス株式会社 学術部)

血液研究班員

参加人数 : 会員29名 女子栄養大学生 講義20名 鏡検実習9名

出席した研究班班員 : 中山智史 網野育雄 原誠則 神成千晴 澁川絵美

研修内容・感想など

午前中は林氏より、リモートにて血液形態の基礎的な講演が行われ、午後からは実習室にて鏡検実習を行った。鏡検実習では3～4名に1台モニターが用意され、講師が実際に見ている

目的の細胞をモニターに写すことで、受講者はそれを参考にしながら鏡検を行った。基礎から実践まで学べる機会となった。



以下に参加された会員の方々の感想をご紹介します。

大宮双愛病院
植松 梨花



今回研修会に参加して今一度基礎に立ち返ることができ大変勉強になりました。個人的に小児科のEB疑いの血液像を見る際、鏡検していくうちに迷うことが多かったので今回の講義で反応性リンパ球の様々な形態を示すことを学び、実習で講師の方に鏡検したのを確認して頂いて少しずつ目が慣れてきたと実感しました。

実技は、鏡検をリアルで見るのに勝るのではないかと改めて感じました。基礎知識の補強し実際に鏡検することが出来、明日からの業務に活かしていけると思いました。コロナ禍においてこのような機会が得にくい中、研修会を開催していただき関係者様には感謝しています。ありがとうございます。

川口市立医療センター
吉田 智洋



この度は、初心者・初級者血液形態セミナー～デジタル機器を用いて血液形態を共有しよう～を開催していただき、ありがとうございました。

私は今年3月に大学を卒業し、4月から病院で働いています。そして、血液検査に配属が決定したため、血液学を勉強しています。まさに初心者なので、このようなセミナーが開催されていることを知り、とてもありがたかったです。セミナーでは、顕微鏡を用いた実習の前に、シスメックスさんの講義があり、形態の特徴等を頭に入れたうえで実際の鏡検に臨めたのでとてもよかったです。

このセミナーを通して得られた知識を活かしながらこれからも仕事を頑張っていきます。ありがとうございました。

**令和2年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第10回 理事会議事録**

日時：令和2年11月12日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：I. 行動報告 II. 報告事項
III. 承認事項 IV. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 矢作 松岡 小山 長澤
山口 神嶋 松尾 伊藤 笹野
松寄 石井 神戸 阿部 長岡
長谷川

(監事) 遠藤

Zoomにて出席

(理事) 猪浦 濱本 菊池 塚原
久保田 飯野

(監事) 細谷

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は22名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

I. 行動報告 (令和2年10月8日～令和2年11月11日)

10月8日(木) 令和2年度第9回理事会：

神山、矢作、松岡、猪浦、小山、濱本、長澤、山口、神嶋、松尾、笹野、塚原、松寄、石井、神戸、阿部、長岡、久保田、長谷川、遠藤、細谷

10月8日(木) 事業部会：長澤、伊藤、笹野、塚原、松寄

10月16日(金) 第48回埼玉県医学検査学会第13回実行委員会：神嶋

10月17日(土) 日臨技予算実績管理委員会：神山

10月19日(月) 県とPCR関連の打ち合わせ：神山、猪浦

10月21日(水) 日臨技支部学会調整会議：神山

10月27日(火) 日臨技人事委員会：神山

10月29日(木) 日臨技共済制度委員会：神山

10月30日(金) 第49回埼玉県医学検査学会第1回実行委員会：神山、神嶋、飯野

11月4日(水) 生涯教育プログラム12月・1月分の行事登：長谷川

11月7・8日(土・日) 日臨技検体採取指定講習会：神山

11月9日(月) 埼玉県公衆衛生大会：神山

11月10日(火) 日臨技人事委員会(臨時)：神山

II. 報告事項

1 事務局

- 1) 10月3日(土)、Zoom会議導入における確認会議が開催された。(別紙資料1)

2) 10月19日(月)、埼玉県感染症対策課とPCR研修に関する打合せを行った。また、埼玉県医療整備課長名で研修会実施の依頼書を受領した。(別紙資料2)

3) 臨床検査技師に対するPCR検査のための鼻腔・咽頭拭い液の採取に関する研修の進捗。PCR検査研修会を11月23日(月)、12月20日(日)、1月17日(日)に各定員8名で募集。検体採取は11月25日(水)、12月3日(木)、12月17日(木)、12月24日(木)で、定員2人で募集。追加の受講者も上記の日程で対応する予定。

4) 10月30日(金)、埼玉県臨床工学技士会より、県民公開講座の名義後援依頼が送付され、承諾した。

2 総務部

1) 「埼臨技だより」第498号11月15日(日)発行予定。

3 事業部

1) 10月8日(木) 事業部会を開催した。(別紙資料3)

2) 10月30日(金) 検査と健康展中止のチラシが浦和駅周辺の21,000世帯への新聞折込が完了した。

4 学術部

1) 12月からの研究班オンライン研修会運用についての周知文をホームページへ掲載した。

2) 10月23日の一般検査研究班研修会の参加人数を開催会場の定員緩和に伴い募集人数プラス研究班員と増加修正した。

3) 第1回編集会議(メール会議)を開催した(別紙資料4)

4) 埼臨技会誌No.2(10月末入稿12月15日発行)の入稿・発行について三役承認で1ヶ月延長とした。

5 精度保証部 特になし

6 会計部

1) 令和2年度正会員費8名40,000円、入会金7名分7,000円、再入会金1名分1,000円、合計48,000円の入金があった。

2) 日臨技より生涯教育推進事業研修会助成金50,000円×2、合計100,000円の入金があった。

3) 石井印刷へ、埼臨技だより第497号印刷代93,570円、学会特集号仕分費33,484円、封筒角2号印刷費60,500円を支払った。

4) 極東製薬工業(株)から疑似便の特許権等の譲渡対価として303,409円の入金があった。

5) スズケンから精度管理調査試料代として、889,482円の入金があった。

6) NECネットエクスアイ(株)へZoomライセンスサービス料として121,440円を支払った。

7 精度管理委員会

1) 10月27日(火)、埼玉県医師会精度管理調査速報値を埼玉県医師会HPおよび埼臨技HPへ掲載した。

8 一都八県会長会議 特になし

9 日臨技関甲信支部 特になし

10 日臨技

1) 日臨技診療報酬対策委員会が9月19日(土)に開催され、各都道府県から協力を得た診療報酬の加点・増点要望のアンケートについて取りまとめを行った。

11 第48回埼玉県医学検査学会

1) 10月16日(金)、第48回埼玉医学検査学会第13回実行委員会が開催された。
(別紙資料5)

12 第49回埼玉県医学検査学会

1) 10月30日(金)、第49回埼玉医学検査学会第1回実行委員会が開催された。
(別紙資料6)

III. 承認事項

1 事務局

1) 会員動向(令和2年度分)
令和2年11月1日現在
会員数 3,259名[令和元年度会員数3,144名]
(新入会員 215名)
賛助会員 78社[令和元年度 81社]
承認された。
2) 令和3年2月の理事会の開催日の変更について
令和3年2月10日(水)に変更したい。
承認された。

2 総務部 特になし

3 事業部

1) 令和3年度日臨技「全国検査と健康展」の会場について
例年同様浦和コルソ1階コルソ通りとしたい。
承認された。

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

7 精度管理委員 特になし

8 第48回埼玉県医学検査学会

1) ネームカードについて
上記の件について、神嶋理事より発言があり、審議の結果、事務所にあるネームカードを使用し、回収はしないこととした。今後の技師会行事で使用する場合はその都度、必要分を購入することで承認された。

9 第49回埼玉県医学検査学会

1) 開催形式について
上記の件について、神嶋理事より発言があり、審議の結果、会場のキャンセル料の発生について確認後、会場形式にするかWeb形式にするか決定する。会場キャンセル料の期日によっては会場キャンセルとWeb開催について三役承認とすることで承認された。

IV. 議題

1 事務局 特になし

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部

1) オンライン研修会での生涯教育点数付与基準

上記の件について、長岡部長より発言があり、審議の結果、1時間未満の研修会参加について10点の付与1時間を超える研修会について20点付与することとした。4月1日より運用を開始とする。

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

理事が持ち回りで書く「あとがき」第4弾です。生き物として順調に年齢を重ね、それをひしひしと実感しているこの頃、昭和なおじさんとしては気になっていることがあります。あるとき「こちらが資料になります」と手渡され、「ムムム・・・資料が自ら資料になったわけじゃないのに」と思ってしまいました。皆さんは、お店で会計する時に「N円になります」と言われ、違和感がありませんか？そこで、調べなおしました。

「～になります」は「～になる」を、より丁寧に表現したものです。「なる」は(1)変化・移行した結果(2)相当・匹敵する、を表すそうです。お店での会計のケースでは「合計が」や「お釣りが」を補うと(1)の意味で違和感が無くなります。資料のケースでは(1)の意味では違和感がありますが、「期待どおりではないかもしれませんが、これが今回の資料に相当します」と(2)の意味の謙譲表現だとすると、誤りとは言えなくなります。

詰まる所、私の知識が(1)の意味までで止まっていたことが違和感の原因だったという、ちょっと寂しいオチでした。お粗末様でした。(古い!!)

(長谷川 記)

